

# 地域薬剤師会学術大会展示レポート

## 第26回近畿薬剤師学術大会レポート OTC医薬品への関心の高まり

大阪合同支部長 山口 敦士

2024年(令和6年)11月10日(日)、大阪府大阪市のマイドームおおさか、シティプラザ大阪において第26回近畿薬剤師学術大会が開催されました。今回出展を企画した経緯は複数あります。

一つ目は、新入会員勧誘のための声掛けを各会員へ呼びかけ続けた結果、新たに勧誘できる方法が見当たらないという声が多くなってきたことです。そのためこれまでの手法とは異なるアプローチが必要になってきました。

二つ目は、先に行われた第57回日本薬剤師会学術大会(埼玉)における協

励会ブース開設で、入会の問い合わせが多くあったことです。

三つ目は、今回主催された(一社)大阪府薬剤師会の会長で大阪南・乾薬局の乾英夫先生から直接、協励会でブースを出展して大会を盛り上げてほしいとの要望をいただいたことです。

四つ目は、会員増加育成委員長協議会がとても活発で他の合同支部長から刺激を受け、自分たちも何か新しい取り組みを行いたかったことなどがあげられます。

当日、学術大会には約1,400名が参加しとても盛会となりました。また協励会のブースにもたくさんの方が立ち寄っていただきましたが、寄せられた反応から、地域支援体制加算の要件に基本的48薬効群の販売があり、調剤を主にした薬局においてもOTC医薬品への関心が高まっているのを感じました。ただ現状、OTC医薬品は義務的に置いているだけで、それを販売して顧



客づくりや販売の柱づくりをしていこうという思いの方はあまりいなかったという感触です。しかし48薬効群をきっかけに薬局で健康相談を始められること、せっかく置いた商品の期限が切れるのを待つだけではなく、しっかり販売していくことで処方箋がなくても来局につながる可能性があること、販売するならどこにでもある商品は価格競争となり、大手ドラッグチェーンには対抗できないのでオリジナル商品が必要になることなどを話すと、興味をもってもらえるようになりました。

自分たちも同じ薬局経営者であると話すとき警戒心や壁がなくなり、より会話がスムーズになることが感じられました。

近畿薬剤師学術大会は輪番制で開催府県が変わるため、今後も近畿合同支部と大阪合同支部共同で、このような取り組みを継続していくことが大切だと感じました。



展示ブース

## 第63回日本薬学会・日本薬剤師会・ 日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会レポート 資料がほしいとの声に手応え

中国合同支部長 広本 篤

2024年(令和6年)11月16日(土)、17日(日)の両日、岡山県岡山市の就実大学にて、第63回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会が開催され、協励会では中国合同支部と四国合同支部の共同設営にて、ブース出展を行いました。天候にも恵まれ1,500名を超える参加者で学術大会は大盛況、多くの方々がブースにいらっしやいました。

ブースではオレンジ色のKYOREI



協励会の活動や選定品を紹介する

ジャンパーを着用し、『エルエル』誌や空箱のサンプルを手に、協励会の活動や選定品の紹介をさせていただき、アンケートも取らせていただきました。回答いただいた半数以上は20代の薬剤師の方々でした。

「健康相談、漢方相談ができる薬局に興味がありますか」という問いには91.7%の方が「ある」とお答えいただき、調剤だけでなく本来薬局がもっている魅力に関心のある薬剤師が多いことをとてもうれしく思いました。一方で「協励会をご存じですか」という問いには91.9%の方が「知らない」とお答えになり、がっかりしたのと同時に、「まだまだわれわれの認知度には伸びしろがある!」とより一層、説明に力が入りました。

「協励会で行っているセミナーで興味があるものはありますか」の問いには



「漢方・皮膚セミナー」「エイジングケアセミナー」がいずれも50%を超える関心度の高さでした。一般の医院・病院等ではカバーされづらいこれら協励薬局の強みである領域に関心が高かったことがうれしく、明日からの店頭での販売にさらに力を入れていかなければと改めて思いました。

10名弱の方には「協励会の資料を送ってほしい」といううれしい声をいただき、後日、お礼状と一緒に協励会のパンフレットをお送りさせていただきました。このご縁がつながり、一人でも多くの方に入会していただけることを期待しています。

設営にご協力いただいた、中国合同支部、四国合同支部の先生方、日邦薬品工業(株)の皆さま、協励会本部の皆さまに感謝します。